わたしたちは、さいとう和夫さんを応援します！

齊藤さんの信条に共感し彼を応援します



元フォーブス誌日本代表
株式会社チエノワ顧問
飯塚敏彰

齊藤さんは初当選以来、動物愛護政策、子育て支援政策、超高齢社会における福祉政策などを政治課題の中心に据え、市民に寄り添う活動に力を尽くしてきました。また、専門知識を要する行財政の健全化についても、2期目の議員とは思えない厳しい質疑を行ってきました。
齊藤さんは、小さな命と子どもたちを守り、お年寄りにやさしく、ジェンダーギャップもジェネレーションギャップもない街づくりこそ自分の使命と確信しています。私は、齊藤さんの政治信条に共感し、彼の理念、ビジョンに賛同します。皆さま、船橋市を愛して止まない齊藤さんを議会に送り出すためにお力添えをお願いいたします。

齊藤さんの手腕を頼りにしています



千葉県動物愛護推進員
切替輝美

齊藤議員をお見かけすることがいちばん多いのは、最寄りの獣医さんの待合室です。闘病中の愛猫を見守る様子や看護のお話を聞くにつけ、こういう方が殺処分ゼロの活動をしてくださることを嬉しく思います。齊藤さんが市議会で活躍してくださったら、船橋はますます愛にあふれる市になることでしょう。
他市の獣医さんから、船橋で保護猫と飼い主のマッチングの場を作りたいとご相談があったときも、いろいろな可能性を一緒に探ってくださいました。そのときのフットワークの軽さ、準備の丁寧さに感動しました。私は市民のことはもちろん、動物の話にも手を抜かない愛の人、齊藤さんを尊敬し、お困りごとに対応するその手腕を頼りにしています。

動物愛護の問題解決を齊藤さんに託します



ジャズピアニスト、作曲家
クリヤマコト

ぼくはミュージシャンになっていなければ動物関係の職業についていたと思うぐらい動物好きで、昨年も保護犬活動の映画音楽を作りました。動物愛護の問題解決であれば、齊藤さんは紛れもなく適任者です。
齊藤さんには正義感があり実行力に優れていることを、ぼくは長年のお付き合いでよく知っています。
また、齊藤さんは出版社時代に数々の文化イベントを手がけ、ご自身も長年にわたり音楽活動を続けておられます。船橋がより音楽やアートに満ち溢れた文化都市に進化していく上でも、齊藤さんは必ず力を発揮してくれるはずです。
齊藤和夫さんの今後のご活躍に大いに期待し、全面的に応援させていただきます。

齊藤 さいとう和夫 かずお

あきらめません。殺処分ゼロ！動物愛護行政の実現を！

殺処分をなくす早道は、
自治体施設に収容される動物の数を減らすことです。

プロフィール

1958年生まれ。
船橋市立高根台第一小学校、高根台中学校、千葉県立薬園台高等学校、中央大学商学部会計学科卒業。翻訳会社、米ニュース誌TIME、アシェット婦人画報社（現ハースト婦人画報社）勤務を経て、現在は亡父から引き継いだ小さな会社を経営。

- ◆高校時代は、弓道同好会（現在は弓道部）の創設メンバー。同好会の傍ら、バンド活動に打ち込んでいました。
- ◆大学は公認会計士を目指して、国家試験合格率の高い中央大学に入学。名門の会計学研究会に入会したものの、ある米国の小説との出会いをきっかけに翻訳の勉強にのめりこむことになりました。
- ◆在学中アルバイトをした翻訳会社から誘われ、卒業後入社。この会社でクリエイティブな仕事の面白さを覚えたことが、出版社への転職につながりました。
- ◆平成27年4月の船橋市議会議員選挙に立候補し初当選。健康福祉委員会委員、広報委員会委員・委員長を歴任。平成29年10月、船橋市動物愛護推進議員連盟を結成し会長に就任。平成31年4月の船橋市議会議員選挙で2度目の当選。総務委員会副委員長を拝命。現在、総務委員会委員長、議会運営委員会委員、予算決算委員会理事、広報委員会委員。
- ◆船橋市動物愛護推進議員連盟会長、船橋市LGBT・性の多様性を考える議員連盟所属。

趣味　音楽鑑賞・演奏（ドラムス、ギター）、活字中毒。
家族　母、妻、二女一男、猫7匹（すべて保護猫）。



私は無所属のため組織力がありません。資料配布、ポスター貼り、事務作業などを手伝ってくださる方はぜひご連絡ください！

〒274-0065 船橋市高根台1-17-11
TEL/FAX: 047-463-0945　携帯: 090-2554-7173
メール: ksaito.funabashi@gmail.com

さいとう和夫★公式ホームページ『助けられる命があるから、立ち上がる!』
http://kazuo-saito.com



助けられる命があるから、立ち上がる！

齊藤 さいとう和夫 かずお

討議資料

助けられる命があるから、立ち上がる!

2015年、「犬・猫の殺処分・虐待ゼロ」を掲げて立候補し、議会に送り出していただいてから、2期8年間の私の議員生活も新たな区切りを迎えようとしています。この間、飼い主のいない猫の不妊去勢手術の無償化、常時受付の実現など、市の動物行政をリードしてきた自負が私にはあります。ありがたいことに一般質問で動物行政を取り上げる議員の数も増えました。

船橋市の犬の殺処分数はゼロを達成できたといっても良い状況ですが、猫の場合は、私が議員になる前、2013年度の224匹から2021年度には53匹まで減少したものの、いまなお少なからぬ命が奪われている悲しい現実があります。国・自治体が取り組むべき課題は山積しています。例えば、殺処分ゼロを掲げる自治体は珍しくなくなりましたが、その多くは保護動物の引き取りや譲渡を担う愛護団体やボランティアに依存しています。殺処分をなくすには、なによりも自治体施設に収容される犬・猫の数自体を減らすための対策を講じなくてはなりません。

8年間の議員生活で、行財政の健全化の必要性も実感しました。高齢化が加速する一方で生産年齢人口の伸びが鈍化しています。高齢者や障がい者などの社会的弱者に対する福祉、生活保護などにかかる扶助費は拡大を続けており、市財政の先行きは決して楽観できません。費用対効果に基づく各事業の適正な予算配分、職員配置の見直しによる部分最適と全体最適の実現、DXの活用および責任と権限の見える化による業務の効率化は、早急に着手すべき重要な課題と考えます。

小さな命と弱者を守ること、慈しむことが思いやりの原点であり、成熟した社会の姿であるとの、私の信念は変わりません。この信念のもと、出版社時代に培った企画力とネットワーク、経営者時代も含めて身に着けたバランスのとれた判断力と実行力、そして議員としてのこれまでの経験を活かして、市政を監視し提言を行ってまいります。引き続きさいとう和夫に活躍の場を与えていただけますよう、皆様のご支援ご協力をお願い申しあげます。

船橋市議会議員
さいとう和夫

あきらめません。殺処分ゼロ、動物愛護行政の実現を!

殺処分をなくす早道は、自治体施設に収容される動物の数を減らすことです。そのためには、動物の遺棄や不適切な飼養をなくし、飼い主のいない猫の問題を解決しなくてはいけません。また、殺処分だけでなく、動物の虐待や悪質な繁殖、生体販売を規制しなくては、人の犠牲になる動物をなくすことはできません。

- ◆TNR（飼い主のいない猫に不妊去勢手術を施した後に、もと居た場所に戻すこと）事業のさらなる改善と周辺住民からの苦情解消に努めます。
- ◆動物愛護に取り組む団体やボランティアとの連携を強め、支援を拡充します。
- ◆災害時の飼い主と伴侶動物の同行・同伴避難、被災動物の救助の確実な実施のため活動します。
- ◆動物の適切な飼養、飼い主のモラル向上のために活動します。
- ◆動物が人に癒しと潤いを与える「動物介在活動」を推進します。
- ◆小さな命や弱者を大切にする「命の教育」の充実を働きかけます。

健全な行財政は住民福祉の土台

社会学に「財政は数字に凝縮された住民の運命である」という言葉があります。この言葉のとおり、無駄のない、適正な財政運営なくしては、多様化、複雑化する住民ニーズに応え、十分な住民福祉を実現することはできません。

- ◆行政評価と業務改善の仕組みの定着を目指します。
- ◆DXの活用をはじめとした業務の効率化と役所の風土改革を提言し続けます。
- ◆適正な予算配分と職員配置に向け監視と提言を行います。
- ◆行財政情報の透明化を進め、住民の声が反映されるよう努めます。



子どもたちが貧困や家庭環境による壁を乗り越える手助けを

子どもたちが学び、才能を伸ばしていくための機会は、家庭の経済状況や環境などに影響されることなく、等しく提供されるべきです。生活困窮世帯の子どもたちを対象とした学習支援事業は機能しているか、ヤングケアラーの現状把握と対応策は十分か、保育環境、幼児教育環境の整備は十分か、障がいのある子どもたちへの支援は行き届いているか、令和8年に開設を予定している市の児童相談所の体制づくりは適切に進められているかなど、子どもたちを取り巻く課題に目を光らせ、改善に努めてまいります。

文化と芸術をもっと身近に

これは初当選以来、私が掲げている公約のひとつです。子どもからお年寄りまで、多くの人が日常的に文化、芸術に触れることのできるまちづくりを目指していきたいとの思いは、いまでも変わりませんが、残念ながら、未だ実績をあげていません。財政状況が厳しいなか、いかにして文化都市、船橋を実現できるか、市民の皆様のお声を道標に方策を考えてまいります。引き続き、ご助言ご協力のほどお願い申しあげます。